

平成12年国勢調査結果

～ 従業地・通学地集計結果 福岡市分～

平成12年10月1日実施の「平成12年国勢調査 従業地・通学地集計結果」の福岡市分がまとまりましたので、その結果についてご紹介いたします。なお、従業地・通学地集計では「常住人口」に年齢不詳の者を含まないことから、本市の常住人口は、1,336,662人となり、本市の確定人口1,341,470人と一致しませんので、ご注意願います。

(増減率 - 0.5%)、2,798人増加(同4.1%)となっています。また、流入人口から流出人口を差し引いた流入超過数は194,512人で、平成7年と比べ、4,169人減少(増減率 - 2.1%)しており、昭和55年以降はじめて減少に転じています。

さらに、昼夜間人口比率(昼間人口/夜間人口×100)は114.6で、平成7年と比べ、0.9ポイント減少しています。

1, 概況

昼夜間人口比率は114.6で、平成7年と比べ0.9ポイント減少

平成12年10月1日現在の福岡市における昼間人口は1,531,174人で、平成7年と比べ、52,088人増加(増減率3.5%)しています。

流入人口は265,156人、流出人口は70,644人で、平成7年と比べ、それぞれ1,371人減少

2, 福岡市民の従業地・通学地

(1) 概況

「自区での就業者・通学者」が大幅増加、「市内他区での就業者・通学者」が大幅減少

福岡市に常住する15歳以上人口のうち、就業者・通学者は756,584人で、従業地・通学地の内訳をみますと、「自区内(自宅内従業者を含む)」は379,387人(構成比50.1%)で、「市内

表1, 昼間人口、夜間人口等の推移

年	常住人口	昼間人口	流入人口	流出人口	流入超過数	対前回増減率(%)		昼夜間人口比率
						常住人口	昼間人口	
昭和55年	1,086,269	1,228,452	178,745	36,562	142,183	8.5	8.5	113.1
昭和60年	1,159,521	1,311,195	196,662	44,988	151,674	6.7	6.7	113.1
平成2年	1,229,865	1,409,342	236,602	57,125	179,477	6.1	7.5	114.6
平成7年	1,280,405	1,479,086	266,527	67,846	198,681	4.1	4.9	115.5
平成12年	1,336,662	1,531,174	265,156	70,644	194,512	4.4	3.5	114.6

表2 市内に常住する15歳以上就業者・通学者の推移

従業地・通学地	実数			構成比(%)			増減数		増減率(%)	
	平成2年	7年	12年	平成2年	7年	12年	2~7年	7~12年	2~7年	7~12年
総数	705,288	750,894	756,584	100.0	100.0	100.0	45,606	5,690	6.5	0.8
自区	346,537	365,581	379,387	49.1	48.7	50.1	19,044	13,806	5.5	3.8
自宅	61,815	48,780	51,908	8.8	6.5	6.9	-13,035	3,128	-21.1	6.4
自宅外	284,722	316,801	327,479	40.4	42.2	43.3	32,079	10,678	11.3	3.4
市内他区	301,878	317,780	306,813	42.8	42.3	40.6	15,902	-10,967	5.3	-3.5
県内他市町村	52,539	61,407	63,244	7.4	8.2	8.4	8,868	1,837	16.9	3.0
県外	4,334	6,126	7,140	0.6	0.8	0.9	1,792	1,014	41.3	16.6
就業者数	582,494	629,464	645,887	100.0	100.0	100.0	46,970	16,423	8.1	2.6
自区	283,215	301,340	317,463	48.6	47.9	49.2	18,125	16,123	6.4	5.4
自宅	61,815	48,780	51,908	10.6	7.7	8.0	-13,035	3,128	-21.1	6.4
自宅外	221,400	252,560	265,555	38.0	40.1	41.1	31,160	12,995	14.1	5.1
市内他区	255,874	273,332	268,411	43.9	43.4	41.6	17,458	-4,921	6.8	-1.8
県内他市町村	39,418	49,255	53,534	6.8	7.8	8.3	9,837	4,279	25.0	8.7
県外	3,987	5,537	6,479	0.7	0.9	1.0	1,550	942	38.9	17.0
通学者数	122,794	121,430	110,697	100.0	100.0	100.0	-1,364	-10,733	-1.1	-8.8
自区	63,322	64,241	61,924	51.6	52.9	55.9	919	-2,317	1.5	-3.6
市内他区	46,004	44,448	38,402	37.5	36.6	34.7	-1,556	-6,046	-3.4	-13.6
県内他市	13,121	12,152	9,710	10.7	10.0	8.8	-969	-2,442	-7.4	-20.1
県外	347	589	661	0.3	0.5	0.6	242	72	69.7	12.2

他区」が 306,813 人(構成比 40.6%)、「県内他市町村」が 63,244 人(同 8.4%)、「県外」が 7,140 人(同 0.9%)となっており、平成 7 年と比べ、「自区」が 13,806 人増(増減率 3.8%)と大幅に増加した一方、「市内他区」が 10,967 人減(同 -3.5%)と大幅に減少しています。

就業者・通学者にわけて従業地・通学地をみますと、就業者は、従業地が「自区(自宅従業者を含む)」が 317,463 人(構成比 49.2%)、「市内他区」が 268,411 人(同 41.6%)、「県内他市町村」が 53,534 人(同 8.3%)、「県外」が 6,479 人(同 1.0%)で、平成 7 年と比べ、それぞれ 16,123 人増(増減率 5.4%)、4,921 人減(増減率 -1.8%)、4,279 人増(同 8.7%)、942 人増(同 17.0%)となっています。

一方、通学者は 110,697 人で、少子化の影響等で、平成 7 年と比べ、10,733 人減少(増減率 -8.8%)しています。

通学地の内訳をみますと、「自区」が 61,924 人

(構成比 55.9%)、「市内他区」が 38,402 人(同 34.7%)、「県内他市町村」が 9,710 人(同 8.8%)、「県外」が 661 人(同 0.6%)で、平成 7 年と比べ、それぞれ 2,317 人減(増減率 -3.6%)、6,046 人減(同 -13.6%)、2,442 人減(同 -20.1%)、72 人増(同 12.2%)となっています。

(2) 流出先人口

粕屋地域への流出が最も多い

本市に常住する 15 歳以上の流出人口 70,384 人のうち、福岡都市圏の各市町村への流出が 51,756 人(構成比 73.5%)、福岡都市圏以外の県内各市町村への流出が 11,488 人(同 16.3%)で、平成 7 年と比べ、それぞれ 1,178 人増(増減率 2.3%)、659 人増(同 6.1%)となっています。

福岡都市圏の各地域別では、粕屋地域への流出が 23,025 人(構成比 32.7%)で最も多く、以下、筑紫地域への流出が 21,885 人(同 31.1%)

表3 流出地域別福岡市の15歳以上就業者・通学者の推移

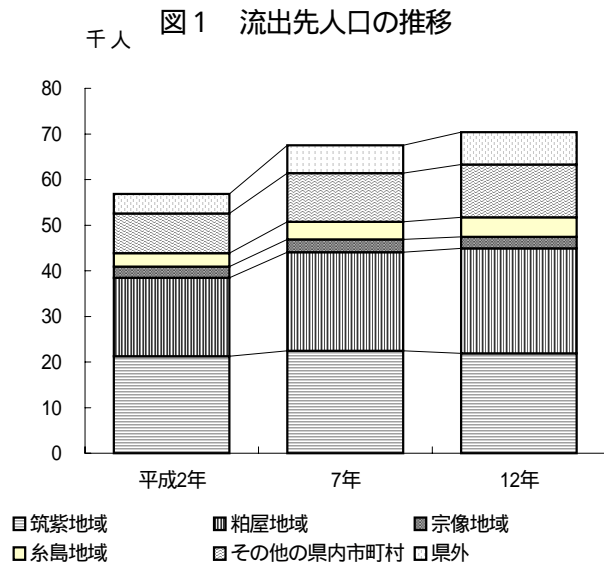
流出先	実数			構成比(%)			増減数		増減率(%)	
	平成2年	7年	12年	平成2年	7年	12年	2~7年	7~12年	2~7年	7~12年
他市町村	56,873	67,533	70,384	100.0	100.0	100.0	10,660	2,851	18.7	4.2
福岡県内他市町村	52,539	61,407	63,244	92.4	90.9	89.9	8,868	1,837	16.9	3.0
福岡都市圏	43,879	50,578	51,756	77.2	75.1	73.5	6,699	1,178	15.3	2.3
筑紫地域	21,252	22,456	21,885	37.4	33.3	31.1	1,204	-571	5.7	-2.5
筑紫野市	3,702	3,726	3,419	6.5	5.5	4.9	24	-307	0.6	-8.2
春日市	4,578	4,792	5,236	8.0	7.1	7.4	214	444	4.7	9.3
大野城市	5,327	5,914	5,832	9.4	8.8	8.3	587	-82	11.0	-1.4
太宰府市	5,018	4,791	4,089	8.8	7.1	5.8	-227	-702	-4.5	-14.7
那珂川町	2,627	3,233	3,309	4.6	4.8	4.7	606	76	23.1	2.4
粕屋地域	17,183	21,635	23,025	30.2	32.0	32.7	4,452	1,390	25.9	6.4
古賀市	2,516	3,348	3,693	4.4	5.0	5.2	832	345	33.1	10.3
宇美町	1,739	1,991	2,014	3.1	2.9	2.9	252	23	14.5	1.2
篠栗町	792	1,230	1,233	1.4	1.8	1.8	438	3	55.3	0.2
志免町	2,792	3,094	3,184	4.9	4.6	4.5	302	90	10.8	2.9
須恵町	1,318	1,651	1,558	2.3	2.4	2.2	333	-93	25.3	-5.6
新宮町	3,405	4,517	4,812	6.0	6.7	6.8	1,112	295	32.7	6.5
久山町	754	969	1,367	1.3	1.4	1.9	215	398	28.5	41.1
粕屋町	3,867	4,835	5,164	6.8	7.2	7.3	968	329	25.0	6.8
宗像地域	2,486	2,656	2,559	4.4	3.9	3.6	170	-97	6.8	-3.7
宗像市	1,272	1,319	1,470	2.2	2.0	2.1	47	151	3.7	11.4
福岡町	971	1,045	787	1.7	1.5	1.1	74	-258	7.6	-24.7
津屋崎町	199	230	232	0.3	0.3	0.3	31	2	15.6	0.9
玄海町	43	62	70	0.1	0.1	0.1	19	8	44.2	12.9
大島村	1	-	-	0.0	0.0	0.0	-1	-	-100.0	-
糸島地域	2,958	3,831	4,287	5.2	5.7	6.1	873	456	29.5	11.9
前原市	2,468	3,153	3,359	4.3	4.7	4.8	685	206	27.8	6.5
二丈町	136	210	317	0.2	0.3	0.5	74	107	54.4	51.0
志摩町	354	468	611	0.6	0.7	0.9	114	143	32.2	30.6
その他の県内各市町村	8,660	10,829	11,488	15.2	16.0	16.3	2,169	659	25.0	6.1
県外	4,334	6,126	7,140	7.6	9.1	10.1	1,792	1,014	41.3	16.6

糸島地域への流出が4,287人(同6.1%)、宗像地域への流出2,559人(同3.6%)と、粕屋地域への流出が、筑紫地域への流出に代わり最も多くなっています。

平成7年と比べ、増加した地域は、粕屋地域への流出の1,390人増(増減率6.4%)、糸島地域への流出の456人増(同11.9%)となっています。

市町村別では、大野城市への流出が5,832人(同8.3%)で最も多く、以下、春日市への流出が5,236人(同7.4%)、粕屋町への流出が5,164人(同7.3%)と続いています。

平成7年と比べ、流出人口が増加した市町村は春日市の444人増(増減率9.3%)、久山町の398人増(同41.1%)、古賀市の345人増(同10.3%)などとなっています。



3, 福岡市における通勤・通学者

(1) 概況

県内他市町村からの通学者が大幅に減少
福岡市を従業地・通学地とする15歳以上の就業者・通学者(950,055人)のうち、常住地が「県内他市町村」は245,320人(構成比25.8%)、「県外」は18,535人(同2.0%)で、平成7年と比べ、「県内他市町村」が1,167人減(増減率-0.5%)、2人減(同-0.0%)となっています。

通勤・通学者にわけて、常住地をみますと、通勤者は、「県内他市町村」が204,027人(構成比25.4%)、「県外」が14,753人(同1.8%)で、平成7年と比べ、それぞれ2,051人増(増減率1.0%)、472人増(同3.3%)となっています。

一方、通学者は、「県内他市町村」は41,293人(同28.4%)、「県外」3,782人(同2.6%)で、平成7年と比べ、それぞれ3,218人減(増減率-7.2%)、474人減(同-11.1%)となっています。

(2) 地域別流入

筑紫地域及び宗像地域からの流入人口が減少に転じる。

福岡市への15歳以上の流入人口(263,855人)のうち、常住地が「福岡都市圏の各市町村」が186,507人(構成比70.7%)、「福岡都市圏以外の県内他市町村」が58,813人(同22.3%)で、平成7年と比べ、それぞれ2,511人増(増減率1.4%)、3,678人減(同-5.9%)となっています。

福岡都市圏の各地域別では、筑紫地域からの

表4 福岡市内で従業・通学する15歳以上就業者・通学者の推移

常住地	実数			構成比(%)			増減数		増減率(%)	
	平成2年	7年	12年	平成2年	7年	12年	2~7年	7~12年	2~7年	7~12年
総数	883,819	948,385	950,055	100.0	100.0	100.0	64,566	1,670	7.3	0.2
自区	346,537	365,581	379,387	39.2	38.5	39.9	19,044	13,806	5.5	3.8
自宅	61,815	48,780	51,908	7.0	5.1	5.5	-13,035	3,128	-21.1	6.4
自宅外	284,722	316,801	327,479	32.2	33.4	34.5	32,079	10,678	11.3	3.4
市内他区	301,878	317,780	306,813	34.2	33.5	32.3	15,902	-10,967	5.3	-3.5
県内他市町村	219,947	246,487	245,320	24.9	26.0	25.8	26,540	-1,167	12.1	-0.5
県外	15,457	18,537	18,535	1.7	2.0	2.0	3,080	-2	19.9	-0.0
就業者数	729,103	790,929	804,654	100.0	100.0	100.0	61,826	13,725	8.5	1.7
自区	283,215	301,340	317,463	38.8	38.1	39.5	18,125	16,123	6.4	5.4
自宅	61,815	48,780	51,908	8.5	6.2	6.5	-13,035	3,128	-21.1	6.4
自宅外	221,400	252,560	265,555	30.4	31.9	33.0	31,160	12,995	14.1	5.1
市内他区	255,874	273,332	268,411	35.1	34.6	33.4	17,458	-4,921	6.8	-1.8
県内他市町村	178,106	201,976	204,027	24.4	25.5	25.4	23,870	2,051	13.4	1.0
県外	11,908	14,281	14,753	1.6	1.8	1.8	2,373	472	19.9	3.3
通学者数	154,716	157,456	145,401	100.0	100.0	100.0	2,740	-12,055	1.8	-7.7
自区	63,322	64,241	61,924	40.9	40.8	42.6	919	-2,317	1.5	-3.6
市内他区	46,004	44,448	38,402	29.7	28.2	26.4	-1,556	-6,046	-3.4	-13.6
県内他市町村	41,841	44,511	41,293	27.0	28.3	28.4	2,670	-3,218	6.4	-7.2
県外	3,549	4,256	3,782	2.3	2.7	2.6	707	-474	19.9	-11.1

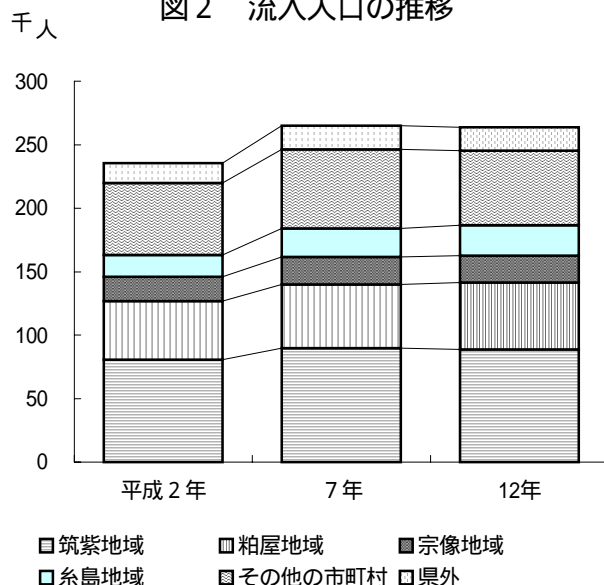
流入が 88,609 人(構成比 33.6%)で最も多く、以下、粕屋地域からの流入 52,935 人(同 20.1%)、糸島地域からの流入が 23,785 人(同 9.0%)、宗像地域からの流入が 21,178 人(同 8.0%)となっています。

平成 7 年と比べ、流入人口が増加した地域は、粕屋地域の 2,691 人増(増減率 5.4%)、糸島地域の 1,598 人増(同 7.2%)となっています。平成 2 年から 7 年は、すべての地域で増加していましたが、今回は、筑紫地域及び宗像地域からの流入人口が減少に転じています。

市町村別では、春日市からの流入が 26,379 人(構成比 10.0%)で最も多く、以下、大野城市が 20,598 人(同 7.8%)、前原市が 17,309 人(同 6.6%)と続いています。

平成 7 年と比べ、流入人口が増加した市町村は、前原市の 1,436 人増(増減率 9.0%)、新宮町の 744 人増(同 15.1%)、粕屋町の 640 人増(同 8.3%)などとなっています。

図 2 流入人口の推移



4 , 福岡市の産業構造(従業地による)

「サービス業」が従業者が最も多い産業となる。福岡市を従業地とする 15 歳以上の従業者数は 804,654 人で、平成 7 年と比べ 13,725 人増加(増減率 1.7%)しています。産業 3 部門別で

表 5 常住地別福岡市の 15 歳以上就業者・通学者の推移

常住地	実数			構成比 (%)			増減数		増減率 (%)	
	平成2年	7年	12年	平成2年	7年	12年	2~7年	7~12年	2~7年	7~12年
他市町村	235,404	265,024	263,855	100.0	100.0	100.0	29,620	-1,169	12.6	-0.4
福岡県内他市町村	219,947	246,487	245,320	93.4	93.0	93.0	26,540	-1,167	12.1	-0.5
福岡都市圏	163,381	183,996	186,507	69.4	69.4	70.7	20,615	2,511	12.6	1.4
筑紫地域	80,594	89,757	88,609	34.2	33.9	33.6	9,163	-1,148	11.4	-1.3
筑紫野市	13,921	16,104	16,506	5.9	6.1	6.3	2,183	402	15.7	2.5
春日市	24,016	27,142	26,379	10.2	10.2	10.0	3,126	-763	13.0	-2.8
大野城市	19,083	20,834	20,598	8.1	7.9	7.8	1,751	-236	9.2	-1.1
太宰府市	14,159	14,707	13,556	6.0	5.5	5.1	548	-1,151	3.9	-7.8
那珂川町	9,415	10,970	11,570	4.0	4.1	4.4	1,555	600	16.5	5.5
粕屋地域	46,069	50,244	52,935	19.6	19.0	20.1	4,175	2,691	9.1	5.4
古賀市	8,337	9,295	9,664	3.5	3.5	3.7	958	369	11.5	4.0
宇美町	6,193	6,807	7,037	2.6	2.6	2.7	614	230	9.9	3.4
篠栗町	5,136	5,716	6,251	2.2	2.2	2.4	580	535	11.3	9.4
志免町	8,861	9,284	9,370	3.8	3.5	3.6	423	86	4.8	0.9
須恵町	4,532	4,878	4,933	1.9	1.8	1.9	346	55	7.6	1.1
新宮町	3,953	4,928	5,672	1.7	1.9	2.1	975	744	24.7	15.1
久山町	1,645	1,622	1,654	0.7	0.6	0.6	-23	32	-1.4	2.0
粕屋町	7,412	7,714	8,354	3.1	2.9	3.2	302	640	4.1	8.3
宗像地域	19,273	21,808	21,178	8.2	8.2	8.0	2,535	-630	13.2	-2.9
宗像市	9,863	11,165	10,859	4.2	4.2	4.1	1,302	-306	13.2	-2.7
福岡町	6,710	7,776	7,465	2.9	2.9	2.8	1,066	-311	15.9	-4.0
津屋崎町	1,998	2,125	2,019	0.8	0.8	0.8	127	-106	6.4	-5.0
玄海町	681	732	819	0.3	0.3	0.3	51	87	7.5	11.9
大島村	21	10	16	0.0	0.0	0.0	-11	6	-52.4	60.0
糸島地域	17,445	22,187	23,785	7.4	8.4	9.0	4,742	1,598	27.2	7.2
前原市	12,369	15,873	17,309	5.3	6.0	6.6	3,504	1,436	28.3	9.0
二丈町	2,279	2,845	3,013	1.0	1.1	1.1	566	168	24.8	5.9
志摩町	2,797	3,469	3,463	1.2	1.3	1.3	672	-6	24.0	-0.2
その他の県内市町村	56,566	62,491	58,813	24.0	23.6	22.3	5,925	-3,678	10.5	-5.9
県外	15,457	18,537	18,535	6.6	7.0	7.0	3,080	-2	19.9	-0.0

は、第1次産業従業者が5,390人(構成比0.7%)、第2次産業従業者が134,029人(同16.7%)、第3次産業従業者が649,922人(同80.8%)となっています。

産業大分類別では、「サービス業」が258,122人(構成比32.1%)で最も多く、以下、「卸売・小売業、飲食店」が245,248人(同30.5%)、「建設業」77,190人(同9.6%)と続き、「サービス業」が、「卸売・小売業、飲食店」に代わり、従業者が最も多い産業となっています。

平成7年から12年の増減状況についてみますと、従業者が増加した産業は、「サービス業」26,304人増(増減率11.3%)など7産業、減少した産業は、「卸売・小売業、飲食店」13,682人減(同5.3%減)など7産業となっています。

5. 区別の昼間人口

(1) 概況

博多区、中央区、南区で昼夜間人口比率は低下

昼間人口について区別で見ますと、博多区が359,392人(構成比23.5%)で最も多く、以下、中央区が281,171人(同18.4%)、東区が266,807人(同17.4%)、南区が207,036人(同13.5%)、早良区が171,201人(同11.2%)、西区が139,492人(同9.1%)、城南区106,075人(同6.9%)と続いています。

平成7年と比べますと、中央区で334人減少(増減率-0.1%)となっています。

次に、昼夜間人口比率についてみますと、博多区が199.2で最も高く、以下、中央区が186.4、東区が99.9、南区が85.2、城南区が84.4、早良区が84.3、西区が83.7と続き、平成7年と比べ、博多区、中央区、南区で低下しています。

また、流入超過の博多区、中央区についてみますと、流入超過数が平成7年と比べ、それぞれ5,061人減(増減率-2.8%)、11,932人減(同-8.4%)となっており、前回に比べ、都心部への流入人口は減少しています。

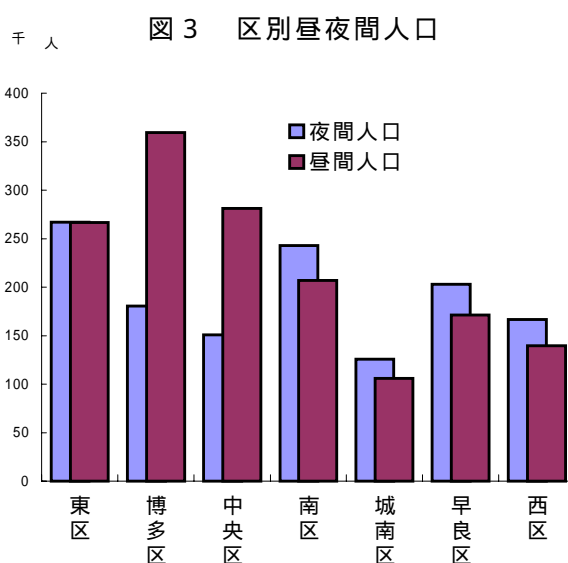


表6 福岡市を従業地とする産業大分類別15歳以上就業者数

産業大分類	実数			構成比(%)			増減数		増減率(%)	
	平成2年	平成7年	平成12年	平成2年	平成7年	平成12年	2~7年	7~12年	2~7年	7~12年
総数	729,103	790,929	804,654	100.0	100.0	100.0	61,826	13,725	8.5	1.7
農業	5,471	5,049	4,270	0.8	0.6	0.5	-422	-779	-7.7	-15.4
林業	112	65	74	0.0	0.0	0.0	-47	9	-42.0	13.8
漁業	1,978	1,286	1,046	0.3	0.2	0.1	-692	-240	-35.0	-18.7
鉱業	174	124	155	0.0	0.0	0.0	-50	31	-28.7	25.0
建設業	73,949	82,562	77,190	10.1	10.4	9.6	8,613	-5,372	11.6	-6.5
製造業	73,007	56,218	56,684	10.0	7.1	7.0	-16,789	466	-23.0	0.8
電気・ガス・熱供給、水道業	5,071	6,151	5,626	0.7	0.8	0.7	1,080	-525	21.3	-8.5
運輸・通信業	57,247	62,122	64,387	7.9	7.9	8.0	4,875	2,265	8.5	3.6
卸売・小売業、飲食	233,708	258,930	245,248	32.1	32.7	30.5	25,222	-13,682	10.8	-5.3
金融・保険業	35,554	36,427	34,415	4.9	4.6	4.3	873	-2,012	2.5	-5.5
不動産業	16,305	15,682	16,895	2.2	2.0	2.1	-623	1,213	-3.8	7.7
サービス業	194,591	231,818	258,122	26.7	29.3	32.1	37,227	26,304	19.1	11.3
公務	25,558	25,963	25,229	3.5	3.3	3.1	405	-734	1.6	-2.8
分類不能の産業	6,378	8,532	15,313	0.9	1.1	1.9	2,154	6,781	33.8	79.5
(再掲)										
第1次産業	7,561	6,400	5,390	1.0	0.8	0.7	-1,161	-1,010	-15.4	-15.8
第2次産業	147,130	138,904	134,029	20.2	17.6	16.7	-8,226	-4,875	-5.6	-3.5
第3次産業	568,034	637,093	649,922	77.9	80.5	80.8	69,059	12,829	12.2	2.0

(2) 昼間人口における各区の人口構成
 博多区及び中央区では、性比及び生産年齢人口の割合が高い

昼間人口の性比(女性 100 人に対する男性の数)についてみますと、昼夜間人口比率が高い博多区及び中央区で、それぞれ 139.2、101.5 と男性超過ですが、昼夜間人口比率が低い西区では 79.2 と、夜間人口のそれと比べ大幅に低くなっています。

次に、昼間人口の年齢構成についてみますと、昼夜間人口比率が高い博多区及び中央区で、生産年齢人口の割合がそれぞれ 85.5%、85.3%と、夜間人口におけるそれと比べ、高くなっていますが、昼夜間人口比率が低い西区では、生産年齢人口の割合が 64.0%と夜間人口のそれと比べ、低くなっています。

このようにみますと、都心部における流入人口は男性の生産年齢人口を中心としたもので

表7 区別の概況

市・区	夜間人口		流入人口	流出人口	流入超過数	昼間人口		昼夜間人口比率
	構成比	%				構成比	%	
平成 7 年								
全	1,280,405	100.0	266,527	67,846	198,681	1,479,086	100.0	115.5
東	260,596	20.4	65,988	70,444	-4,456	256,140	17.3	98.3
博	168,159	13.1	220,170	36,171	183,999	352,158	23.8	209.4
中	139,273	10.9	178,474	36,242	142,232	281,505	19.0	202.1
南	237,377	18.5	45,680	80,232	-34,552	202,825	13.7	85.4
城	124,121	9.7	24,966	46,633	-21,667	102,454	6.9	82.5
早	196,393	15.3	29,485	69,019	-39,534	156,859	10.6	79.9
西	154,486	12.1	23,525	50,866	-27,341	127,145	8.6	82.3
平成 12 年								
全	1,336,662	100.0	265,156	70,644	194,512	1,531,174	100.0	114.6
東	267,003	20.0	67,742	67,938	-196	266,807	17.4	99.9
博	180,454	13.5	214,818	35,880	178,938	359,392	23.5	199.2
中	150,871	11.3	167,352	37,052	130,300	281,171	18.4	186.4
南	242,930	18.2	41,449	77,343	-35,894	207,036	13.5	85.2
城	125,743	9.4	24,615	44,283	-19,668	106,075	6.9	84.4
早	203,048	15.2	34,383	66,230	-31,847	171,201	11.2	84.3
西	166,613	12.5	25,063	52,184	-27,121	139,492	9.1	83.7

注1) 昼間人口及び夜間人口とも年齢不詳の者を含まない。
 注2) 各区の流入・流出人口には、本市の他区との流入・流出を含む。
 注3) 全市の流入・流出人口には本市の各区間の流入、流出を含まない。

表8 昼間人口と夜間人口の人口構成

市・区	昼間人口					夜間人口				
	性比	人口密度 (人/km ²)	年齢別割合(%)			性比	人口密度 (人/km ²)	年齢別割合(%)		
			0~14歳	15~64歳	65歳以上			0~14歳	15~64歳	65歳以上
平成 7 年										
全	103.4	4,381	14.0	76.2	9.8	94.4	3,793	16.0	72.9	11.1
東	107.5	3,982	17.2	72.2	10.7	101.3	4,052	17.0	72.4	10.6
博	144.6	11,190	6.7	86.4	6.9	96.4	5,343	14.3	73.6	12.1
中	110.9	18,593	6.7	86.4	7.0	85.6	9,199	12.2	76.1	11.7
南	82.3	6,547	19.6	68.2	12.2	91.6	7,662	16.5	72.5	11.0
城	85.9	6,395	17.7	70.9	11.4	101.6	7,748	14.8	75.1	10.1
早	76.7	1,636	22.3	65.6	12.1	92.4	2,048	17.9	72.0	10.1
西	79.1	1,518	21.3	64.1	14.6	90.6	1,844	17.6	69.9	12.4
平成 12 年										
全	101.0	4,512	12.5	75.6	11.8	93.1	3,939	14.3	72.4	13.3
東	106.6	4,039	15.1	72.2	12.7	99.9	4,042	15.2	71.9	12.9
博	139.2	11,420	6.1	85.8	8.1	98.3	5,734	12.3	73.8	13.8
中	101.5	18,547	6.5	85.3	8.2	82.1	9,952	10.9	76.2	12.9
南	84.2	6,683	17.5	67.3	15.2	91.2	7,842	14.8	71.7	13.5
城	84.5	6,621	15.5	70.0	14.5	96.6	7,849	13.3	73.8	12.9
早	80.3	1,786	18.8	66.8	14.4	91.2	2,118	15.9	71.5	12.6
西	79.2	1,664	19.2	64.0	16.8	90.5	1,988	16.2	69.3	14.6

あることがわかります。

また、昼間人口における福岡市の人口密度は4,512人/km²で、区別では、中央区が18,547人/km²で最も多く、以下、博多区11,420人/km²、南区6,683人/km²、城南区6,621人/km²、東区4,039人/km²、早良区1,786人/km²、西区1,664人/km²と続いています。

6. 大都市の昼間人口

福岡市の昼間人口は大都市中8番目

13大都市の昼間人口についてみますと、東京都区部が11,125,135人で最も多く、以下、大阪市3,664,414人、横浜市3,091,166人、名古屋市2,514,549人と続き、福岡市の昼間人口規模は大都市の中で8番目となっています。

平成7年から12年の増減状況についてみますと、増加した都市は、横浜市の127,294人増(増減率4.3%)、福岡市の52,088人増(同3.5%)など8都市、一方、減少した都市は、大阪市の138,789人減(増減率-3.6%)など5都市となっています。

昼夜間人口比率についてみますと、大阪市が141.2で最も高く、以下、東京都区部が137.5、名古屋市が117.0、福岡市が114.6と続いています。

平成7年と比べ、昼夜間人口比率は、千葉市、横浜市で、それぞれ0.3ポイント、0.8ポイント増加していますが、それ以外の都市では低下しています。

流入超過人口についてみますと、東京都区部

が3,032,867人で最も多く、以下、大阪市が1,069,020人、名古屋市が365,600人、福岡市が194,512人と続いています。

図4 大都市の昼夜間人口

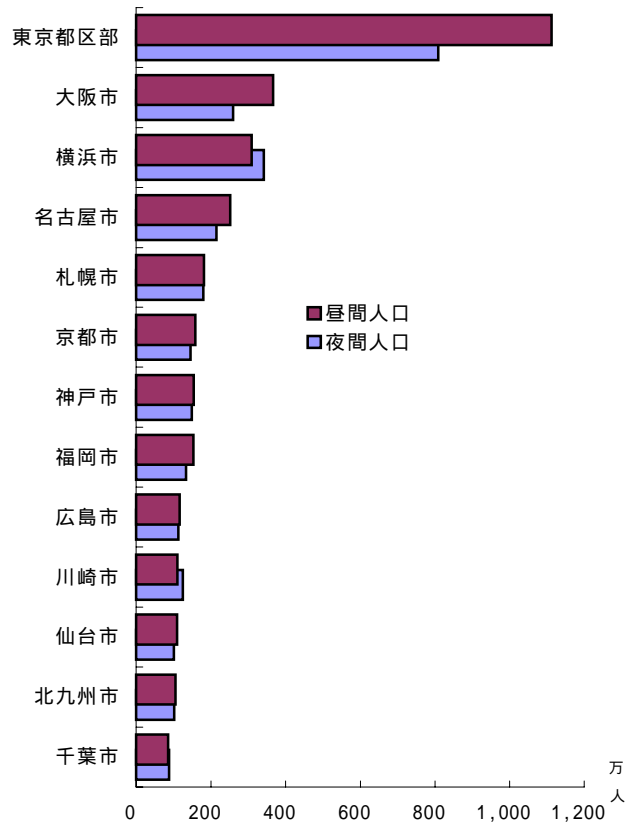


表9 大都市の夜間人口、昼間人口等

	夜間人口		昼間人口		流入超過人口		昼夜間人口比率		平成7年～12年の昼間人口の増減状況	
	平成7年	12年	平成7年	12年	平成7年	12年	平成7年	12年	増減数	増減率
札幌市	1,752,149	1,797,479	1,786,889	1,820,757	34,740	23,278	102.0	101.3	33,868	1.9
仙台市	969,971	1,007,628	1,059,893	1,090,162	89,922	82,534	109.3	108.2	30,269	2.9
千葉市	856,593	883,008	830,339	858,702	-26,254	-24,306	96.9	97.2	28,363	3.4
東京都区部	7,935,211	8,092,268	11,191,345	11,125,135	3,256,134	3,032,867	141.0	137.5	-66,210	-0.6
川崎市	1,201,881	1,249,029	1,067,304	1,097,090	-134,577	-151,939	88.8	87.8	29,786	2.8
横浜市	3,303,708	3,414,860	2,963,872	3,091,166	-339,836	-323,694	89.7	90.5	127,294	4.3
名古屋市	2,144,334	2,148,949	2,543,481	2,514,549	399,147	365,600	118.6	117.0	-28,932	-1.1
京都市	1,454,286	1,454,368	1,601,492	1,584,626	147,206	130,258	110.1	109.0	-16,866	-1.1
大阪市	2,596,486	2,595,394	3,803,203	3,664,414	1,206,717	1,069,020	146.5	141.2	-138,789	-3.6
神戸市	1,422,563	1,492,143	1,493,697	1,536,716	71,134	44,573	105.0	103.0	43,019	2.9
広島市	1,106,763	1,124,765	1,151,314	1,163,405	44,551	38,640	104.0	103.4	12,091	1.1
北九州市	1,018,897	1,010,127	1,058,927	1,044,966	40,030	34,839	103.9	103.4	-13,961	-1.3
福岡市	1,280,405	1,336,662	1,479,086	1,531,174	198,681	194,512	115.5	114.6	52,088	3.5

平成 12 年国勢調査従業地・通学地集計結果における用語解説

1 , 常住地

常住地とは、各人が常住する場所をいう。ここで「常住する」とは、同一場所に3か月以上にわたって住んでいるか、あるいは3か月以上にわたって住むことになっている場合をいう。

2 , 従業地・通学地

従業地・通学地とは、就業者又は通学者が従業・通学している場所をいい、次のとおり区分した。

自市区町村で従業・通学

従業・通学先が常住している市区町村と同一市区町村にある場合

自宅

従業している場所が、自分の居住する家又は家に附属した店・作業場などである場合

なお、併用住宅の商店・町工場の事業主やその家族従業者、住み込みの従業員などの従業先がここに含まれる。また、農林漁家の人で、自宅の田畑・山林や漁船で仕事をしている場合、自営の大工、左官などが自宅を離れて仕事をしている場合もここに含まれる。

自宅外

自市区町村に従業・通学先がある人で上記の「自宅」以外の場合

他市区町村で従業・通学

従業・通学先が常住している市区町村以外にある場合で、いわゆる常住地からの流出人口を示すものである。

自市内他区

常住地が13大都市(札幌市、仙台市、千葉市、東京都特別区部、横浜市、川崎市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市及び福岡市)にある人で、同一市(都)内の他区に従業地・通学地がある場合

県内他市区町村

従業・通学先が常住地と同じ都道府県内の他市区町村にある場合

他県

従業・通学先が常住地と異なる都道府県にある場合

なお、他市区町村に従業・通学するということは、その従業地・通学地のある市区町村からみれば、他市区町村に常住している人が当該市区町村に従業・通学するために来るということで、これは、いわゆる従業地・通学地への流入人口を示すものである。

ここでいう従業地とは、就業者が仕事をしている場所のことであるが、たとえば、外務員、運転者などのように雇われて戸外で仕事をしている人については、所属している事業所のある市区町村を、船の乗組員(雇用者)については、その船が主な根拠地としている港のある市区町村をそれぞれ従業地とした。

また、従業地が外国の場合、便宜、同一の市区町村とした。

3 , 昼間人口と夜間人口

従業地・通学地による人口(昼間人口)とは、従業地・通学地集計の結果を用いて、次により算出された人口である。ただし、この昼間人口には、買い物客などの非定常的な移動については考慮していない。また、常住地による人口(夜間人口)とは、調査時期に調査地域に定住している人口である。

例 A市の昼間人口の算出方法

$$\begin{aligned} \text{A市の昼間人口} &= \text{A市の夜間(常住)人口} \\ &+ \text{A市への流入人口} - \text{A市からの流出人口} \end{aligned}$$